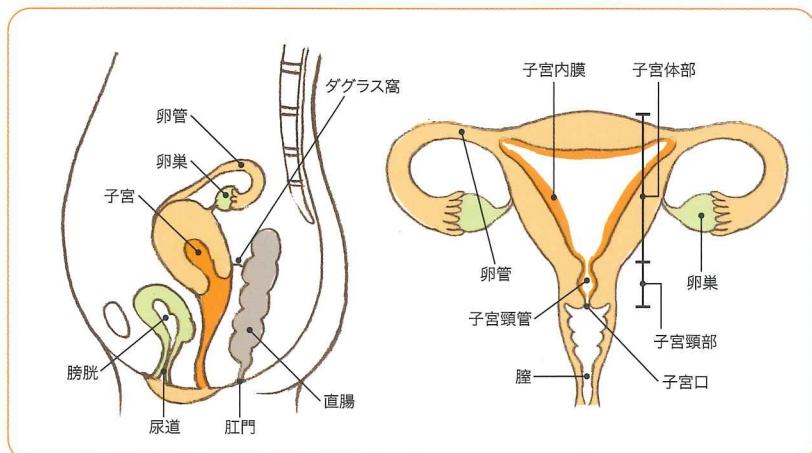


# 子宮

## 子宮のしくみ

子宮は骨盤の中にあり、筋肉でできている。大きく子宮体部と頸部に分かれ、両側にある卵巣は女性ホルモンの分泌や排卵をする。



[監修]  
鈴木直先生  
聖マリアンナ医科大学産婦人科学教授

赤ちゃんをはぐくむ子宮。卵巣では女性ホルモンを分泌するなど、女性の身体にとって大切な器官です。生理痛や出血量など、生理がいつもと違うなどを感じたら、まずは婦人科へ。

## 子宮内部にできる ホルモンが原因のがん 子宮体がん

しきゅうたいがん

### 症状

初期は自覚症状がない。不正出血や月経異常、下腹部痛など。

### こんな人は要注意

肥満・糖尿病・高血圧など生活習慣病の人や、出産経験のない人、乳がん等の疾患でホルモン療法をした人など。

### 治療

子宮全摘が原則。

「子宮内膜がん」とも呼ばれる、子宮の内部にできるがん。女性ホルモンなどの影響を受けるとされている。もともと閉経後の女性に多く、晩産化・少子化によって30歳代の患者も増加。子宮頸がん検診では見つけられないでの別途検査が必要。

## ウイルスが原因のがん 進行はゆっくりなので、早期発見がカギ 子宮頸がん

しきゅうけいがん

### 症状

がんになる前段階では自覚症状はほとんどない。がん早期は不正出血、おりものの増加など。進行すると腰や背中の痛みも。

### こんな人は要注意

主にセックスで感染するので経験の多い人は確率が高くなる。20~30代で急増している。喫煙者は要注意。

### 治療

がん細胞の切除が原則。進行すると子宮全摘の懼れもあるため、定期的な検診で早期発見が望ましい。早期発見で円錐切除すれば、子宮を残して妊娠・出産も可能。

子宮の入り口(頸部)にできるがん。セックスを通じてヒトパピローマウイルス(HPV)に感染するのが主な原因。ただし、もともとカラダに備わっている免疫の働きによって消滅する。ごく一部が持続感染し、5~10年かけてがん化する。検診によって、がんになる前の状態でも見つけることができる。

### ○子宮体がんの罹患者数・死者者数



### ○子宮体がんの5年相対生存率



### ○子宮頸がんの罹患者数・死者者数



### ○子宮頸がんの5年相対生存率

